

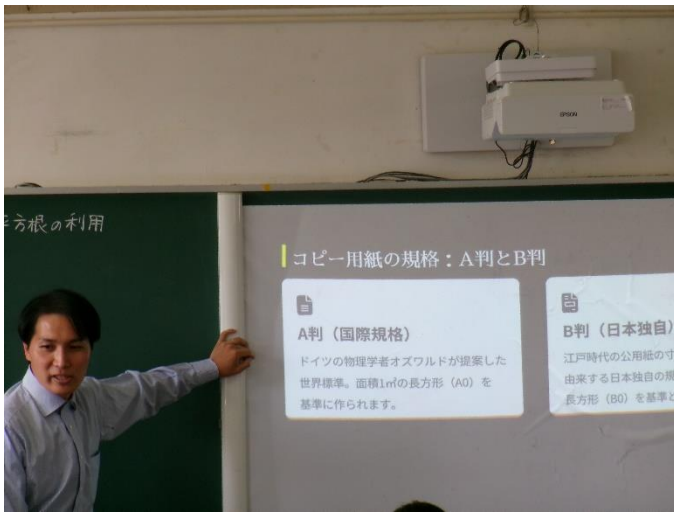
# 学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたちの知的好奇心に火をつけ、深い学びへと導く「パーソナルトレーナー」としての先生方の実践を追う本レポート。今回は、3年1組で行われた平石達也先生の授業（単元名：「平方根の活用」）を参観しました。「数学がデザインした最も効率的な長方形を探る」という知的な問いを掲げ、黒板とICTを巧みに使い分けた構造的な授業設計で、生徒の思考を整理する素晴らしい授業の様子をお届けします！

## ◆ 黒板とICTの巧みな連携が生む「論理の可視化」



平石先生の授業における特徴は、黒板の構造的な板書とICTの使い分けによる「思考の重層化」です。必要な場面でスクリーンを活用してシミュレーションを見せつつも、生徒が自らの思考の跡を追えるよう、黒板には重要な導出プロセスや図を丁寧に残す。この緩急のある提示が、生徒の論理的な思考を深く助けていました。

特に、長方形を半分に折っても相似が保たれるという数学的性質を、図形的根拠と計算の両面から解き明かす構成は視覚的にも非常に明快でした。タブレット上の計算結果から平方根が見えた瞬間、教室には納得の空気が満ちていました。「なぜここに平方根があるのか」という問いに対し、生徒たちが自身の言葉で説明できるようになった姿に、確かな理解の深まりを感じました。

## ◆ 数学教員としての矜持を伝え、学びの先にある未来を見せる

授業の締めくくりに、先生は「身の回りの事柄に関連付けて数学を学んでほしい」という熱いメッセージを届けられました。単に公式を覚えることを超え、数学というフィルターを通して世界をデザインする楽しさを語る先生の姿からは、生徒の未来の可能性を信じる温かい眼差しを感じました。

教え伝えるだけでなく、生徒の心に「数学的なものの見方」という一生の財産を手渡すその指導は、まさに理想の伴走者の姿です。黒板の板書一つ一つにも「数学の美しさ」を教えようとする先生の信念が、生徒たちの学びへの態度を確実に変えています。

## ◆ おわりに

論理と視覚の両面から生徒の思考を整理し、数学的なものの見方を育む素晴らしい授業でした。生徒一人一人の未来を考え、学びの意義を伝え続けてくださる日々の授業づくりに、心から感謝いたします。数学を通して世界を見る瞳が育つ、そんな豊かな学びの時間を本当にありがとうございました！